



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.11
令和5年10月18日
文責：校長 福島

天高く馬肥ゆる秋



ようやく秋らしさを感じるようになりました。いい季節です。

学校ではインフルエンザが流行っていますが、コロナは落ち着きを見せています。地域の行事も4年ぶりに開催され、賑わいが戻ってきました。以前の「当たり前」が少しずつ戻って来ている感じがします。

私は、10月7日に「小倉村誕生145周年記念式典・秋祭り」に、10月15日に「昇町地区運動会」に参加させていただきました。

週末も大変だと思われるかもしれませんが、私は地域に出かけていくのが好きです。仕事として行くというよりは、楽しいから行くという感じです。夏祭りも含め、地域の方や保護者の皆様と話をするのが楽しいです。温かく受け入れてくださるから感じられる気持ちです。

小倉の記念式典では、なごみ太鼓に本校の子供たちが参加しました。毎週末に練習しているそうです。なごみ太鼓には若者がたくさんいます。小学校から続けている本校の卒業生だということを知るととても誇らしく思いました。祭りにはたくさんのかすがっ子が参加していました。みこしを担いで地域を練り歩いたり、出店を楽しんだりする姿がありました。

昇町運動会にもたくさんのかすがっ子が参加しました。競技を楽しむだけでなく、選手宣誓をしたり、準備や片づけを手伝ったりする姿がありました。放送を担当していたのは本校の卒業生でした。こちらも誇らしく思いました。

両地域の行事は、多くのボランティアによって成り立っています。熱心に行事に関わるたくさんの方のボランティアの姿を子供たちは目にします。学校では体験できない貴重な学びが地域にあることは確かです。

人とのかわりが制限されたコロナ禍3年間の影響は、子供の育ちにとってとても大きなものであると感じます。かわりが戻りつつある日常に、1分でも多く子供たちを浸らせたいと思う秋の今日この頃です。